

夜間救急外来における診療放射線技師の MRI 撮影前金属チェックの取り組み

山路 勇護¹⁾ 安居 剛¹⁾ 谷崎 義生²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 画像診断課

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[目的]地域の医療機関や救急隊からの要請に対し 24 時間 365 日脳卒中患者を受け入れ速やかに診療を開始できる一次脳卒中センターの認定が開始され、脳・神経疾患専門病院である当院も 2019 年に認定を受けた。脳卒中急性期診療においては、MRI・CT などの迅速な画像診断が求められる。当院では脳卒中急性期を疑う患者に対する画像診断検査は 3T-MRI が第一選択としている。MRI は磁性体による吸引や発熱、画像アーチファクトなどのリスクを伴い、撮影前の患者への金属チェックは必要不可欠である。当院では可及的速やかに安全な撮影ができるように夜間救急外来に診療放射線技師が赴き、金属チェックを実施する体制が構築されている。その取り組みについて紹介する。

[取り組み]夜間救急外来を受診した患者で MRI 撮影がオーダーされた場合、当直の診療放射線技師が患者の金属チェックを行う。金属チェックは事前に用意させているチェックシートに基づき行い、本人と意思疎通ができない場合は付き添いの家族などに問診を行う。体内金属が不明な場合は MRI 撮影歴の検索などを行う。

[結果]救急外来で診療放射線技師が金属チェックを行うことにより迅速かつ安全に撮影が行うことができた。救急外来における MRI 撮影で吸引や発熱などの事故報告はなかった。

[結論]脳卒中急性期医療において 3T-MRI による画像診断の役割は非常に大きい。撮影に際しての金属チェックは時間を有するうえ、3T-MRI には特有の禁忌事項があり安全の確保が重要となる。当院のような中規模病院における夜間救急外来では撮影前の金属チェックに対応できる人員に限りがある。診療放射線技師が夜間救急外来でいち早く金属チェックを担当することで迅速に MRI 撮影を行うことは、患者の安全にも繋がりを、迅速な診療の一助となり得ると考えられる。